



この人に注目!

「地域の伝統と、そこに生きる人々の暮らしをことばで表現したい—」
本市在住の遠藤彩希さんが所属するゼミでは、「ことば」をテーマに本市を掘り起こした。白石温麺を題材にした朗読劇や「白石民話の会」による民話のほか、本市の小中学生に「白石」「家族」をイメージした作品を募集し、それらの作品を基に朗読劇を作成し発表した。
「方言」という地域の伝統をキーに、学生たちが白石を映し出した。



尚綱学院大学3年
遠藤 彩希さん (称宜内)
(旧白石女子高校出身)

白石に住んでいても、知らないことが本当に多い そのことにあらためて気付くことができました

—今回の感想を：
まさか 白石に住む私がこう
いう形で白石を調べて、白石を
発表することになるとは思いま
せんでした。
白石温麺を題材にした朗読劇
は、私の母が温麺工場に勤めて
いるので、温麺誕生の話を基に
脚本を考えました。白石出身と
はいえ、私自身、方言になじみ
がなかったもので、分からない部
分もたくさんありました。それ
でも、民話の会の方の協力を得
て、方言の指導や脚本の手直し
をしていただいて発表すること
ができました。
—外から白石をみて：
「白石を活性化しよう」とい
う思いで、いち市民として参加
しましたが、まだまだ知らない
ことがあります。それを発表
できたこと、そして、私の知ら

遠藤さんへのインタビュー
後、「白石民話の会」の皆さん
にも話を聞くことができた。昨
年も学生たちに協力した同会の
皆さん。「白石に住んでいても
白石のことを知らない。白石の
ことを掘り起こしてくれて、そ
して、白石を選んでくれてあり
がとう」と話してくれた。



▲方言を交えた朗読劇を演じる学生の皆さん

駅前中心街のキーポイント

「壽丸屋敷」と「すまゐるひろば」をどう生かす

明治中期の店蔵と大正時代の母屋からなる商家「壽丸屋敷」
中心市街地の活性化に向けて、さまざまな利用方法が考えられる「すまゐるひろば」
ここににぎわいを生み出すことが、これからの課題



白石まちづくり株式会社
事務局 立田ふち子さん

白 石をいろいろな切り口か
ら取り上げていただき大
変勉強になりました。
メディアフェスタに限らず、
この場所でイベントを開催する
ことによって大勢の方々がおい
でになります。その方々にその
まま、まちを回遊してもらえ
らうれいいですね。歩いてもら
うことでまちににぎわいが生ま
れます。そのためには、ここを
気持ちよく安心して利用してい
ただける場所としておくことが
大切だと考えています。
一番に心掛けていることは、
お客さまに「どちらからおおい
ですか?」「またおいでくださ
い。ありがとうございます」と
とひと声掛けること。観光客は
私たちの行動を見ています。以

ここを見に来てくれる人・参加してくれる
人たちが、まちを回遊してくれたら—

前、たまたま声掛けができな
かったお客さまが、「自分には
声を掛けられなかった」と違う
場所です話していたことを聞き、
その時は「気を抜く」ことの怖
さをあらためて感じました。
そして、この場所には、作品
との出会いはもちろん、皆さん
との出会いと感動があります。
それがとても幸せです。新たな
出会いが生まれ、人と人がつな
がり、縁を感じることもしばしば
です。これか
らも、「温
もりある壽
丸屋敷」を
心掛けお客
さまをお迎
えしたいと
思います。

【白石まちづくり株式会社】(2003年設立)
壽丸屋敷を拠点に、白石の中心市街地ににぎわいを創出していく
タウンマネジメント機関(TMO)。壽丸屋敷・すまゐるひろば・
カフェギャラリー蔵楽 in イルパッソなどで事業を展開。白石城下
きものまつりやわらべまつりなどのイベントも主催する。
☎ 25-6054 ● ホームページURL <http://www.shiroishi.info/>

学生 × CM ⇒ 白石に新名所をつくり出す!?

学生たちによる新しい試み=「神石しろいし」を恋のパワースポットへ
新しい視点で3本のCMを制作し、2本をメディアフェスタで上映。
残りの1本は、来年1月放送予定の「みやぎふるさとCM大賞」へ出品。



▲「神石しろいし」前で撮影に臨む学生たち

白石に秘められた恋の物語を演出 不変のテーマ「恋愛」をキーに新しい可能性

い きいきプラザのそばにひ
っそりとたたずむ「神石
しろいし」。白石の地名はこの
石が由来とされている説もあ
る。また、その根は深く、遠く
根白石(仙台市泉区)まで続い
ているといわれている。
その伝説に目を付けた学生た
ちは、遠く離れていてもつな
がっている石にちなんで、白石を
舞台とした恋人たちのストーリ
1を制作した。
制作した3本のうち、1本を
「みやぎふるさとCM大賞」へ
出品し、残りの2本も今回のメ
ディアフェスタだけでなく、さ
まざまな場面で活用できるよう
検討していくこととなった。